

演題

2022年度福岡県「失語症者向け意思疎通支援事業」の報告1ーOn-the-Job Trainingによるスキルアップの実施ー

金井 孝典^{1,2}, 高橋 雅子², 佐藤 文保², 徳本 郁恵², 谷村 恵美², 江藤 信介², 佐々木 哲², 山家 貴仁², 妻夫木 美帆², 山口 護慶², 大内田 博文²

¹小倉リハビリテーション病院, ²一般社団法人 福岡県言語聴覚士会

【はじめに】福岡県では失語症者向け意思疎通支援者(以下、支援者)のスキルアップを目的に、On-the-Job Trainingを導入した派遣(以下、OJT派遣)を2022年度から実施している。その取り組みについて報告する。

【事業の概要】支援者の派遣を2021年度から開始している。2023年1月現在、言語聴覚士(以下、ST)13人を含む33人が支援者登録を、失語症者16人と2団体が利用登録を行っている。これまでの派遣実績は個人への派遣が4件、団体への派遣が1件である。

【導入の経緯】支援者に対して選択科目等によるスキルアップ研修を実施しているが、コロナ禍もあり失語症者との関わりが確保しにくい状況があった。このため支援者からは経験や技術不足に対する不安が聞かれていた。一方で、派遣事業の拡大を図る必要があり、対応できる支援者の育成が課題であった。そこで、ST以外の支援者が行う外出同行支援に事業運営に関わるSTが指導者として同行するOJT派遣を導入することとした。

【結果】2022年度はOJT派遣を3件実施した。派遣の依頼内容は、病院受診、携帯電話の修理、役所での手続きであった。いずれも、当日までに電話や対面にて依頼内容、注意点、心構え等を確認した。当日は、支援場面での助言や補助、終了後の振り返りを実施した。指導においては、独自のチェックシートを活用した。依頼内容によっては想定外のこともあり、判断や選択が必要であった。支援者からは、「助言が得られ安心感を持ちながら経験を積むことができた」、「事前情報だけでは不安がある」等の感想が聞かれた。事業側は、支援者の能力の把握や現場指導が行え、また「事前想定」等の派遣場面での課題等の認識ができた。

【考察】OJT派遣は支援者の技術向上や不安の軽減に繋がると考える。一方で、報告書を作成する等して課題整理を行い、事業に活かすことが求められる。OJT派遣を継続し、一人でも多くの利用者の依頼に対応できる体制作りに活かしていく。